

学校評価結果

令和5年度2学期終わりに、本校教員による学校自己評価アンケートを実施しました。テーマは、「校内の業務について」です。その結果をもとに、本校の学校関係者にご協力をいただき、関係者評価を実施しました。結果を簡単にまとめ報告します。

本文、表中に記載されている数値は質問項目に対する回答の平均値であり、本校教員の考えの概ねの傾向を示しています。質問項目ごと

表1. 評価が比較的高い項目(高い順)

(部活動・同好会において) 外部人材を活用した結果、生徒の活動の質が向上したと考える	3.94
学校全体として、部活動・同好会において、外部人材の活用を推進すべきだと考える	3.63
担任以外の学年業務について、学年内でバランスよく分担していると考え	3.60
現在の担任業務のあり方は適切だと考える	3.53
(部活動・同好会において) 外部人材を活用した結果、安全の向上や事故の未然防止につながったと考える	3.47

す。質問項目ごとに「あてはまる度合い」について1～5ポイントで評定をつけ、項目間で比較できるようにしています。

1. 自己評価

「学年内の業務」「分掌の業務」「部活動・同好会の業務」「その他校内業務全般」「その他の意見」について、13項目のポイント評定の質問と10項目の自由記述での質問を行いました。

○評定の高い項目(表1)

表1の評定からは、担任業務をはじめ学年運営に関する業務が適切に運営されていることへの自負が見えます。また、部活動・同好会における外部人材活用の推進を期待する声が読み取れます。

自由記述について、「学年で2人担任制をとって」いることやスクールカウンセラーが「常勤職で職員室に」いることの意義を実感する声があり、現在の運営体制を肯定的に捉える意見が確認されます。

表2. 評価が比較的低い項目(低い順)

ご自身の分掌に割り振られた業務のうち、省略してもよいと思うものがある	2.10
ご自身の分掌に新たに導入してもよいと思う業務がある	2.22
ご自身の分掌に割り振られた業務のうち、他の分掌や学年、委員会などで引き受けた方が効果的・効率的なものがあると考え	2.30
ご担当の部活動・同好会において、外部コーチなどの外部人材(有償、ボランティアの両方を含む)を活用している	2.30
現在の部活動・同好会の業務のあり方は適切だと考える	3.19

部活動・同好会の外部人材活用については、「各専門のコーチなどで生徒の活動が潤うのであれば」活用したいという声がある一方で、「本校の方針に沿った指導をしてもらえる人材」を確保できるかどうかを懸念する声もあります。

○評定の低い項目(表2)
評定の低い3項目は、分掌業務の省略・導入などの必要性を問うものですが、個別の意見としては、「(各種の)「委員会業務の割り当て」の見直しや、「科目横断的な情報交換会の設定」を望む

声もありました。

部活動・同好会に関しては、「教員間の負担の差が大きい」こと、「特定の人に業務が集中している」ことを指摘する声があり、今回浮き彫りになった課題の一つと言えるでしょう。

2. 関係者評価

「学年内の業務」、「分掌の業務」、「部活動・同好会の業務」のそれぞれの妥当性について、平均して3.8ポイントの評価をいただきました。

また、有益な意見やありがたい感想を多数いただきましたので、一部ご紹介します。「カウンセラーの設置が一部の課題解決に寄与しているように思います」「週末返上のクラブ活動や、不登校生徒のフォロー、保護者対応等先生方へは敬意、感謝しかございません」「かなり業務の負担があるように感じます」「よき方向へと業務改善されることを願います」「新しい切り口で評価項目が妥当であると感じた」「(部活動に)思いのある教員の意向を考慮せずに、一律時間的制限を設けたり、外部人材活用を必須にしたりする必要はないと考えます」「負担の大きい部には、人員を割り振る」「自分ができることは積極的に肩代わりする思いやりの気持ちがあるかどうかだと思ふ」など、時に厳しいながらも、温かい目で見守っていただいていることが伝わります。

3. 終わりに

今回の自己評価は「校内の業務」に関するものでした。生徒と教職員にとって、より有意義な学校生活のあり方を考える機会となりました。今回の評価結果や多数の意見を、今後の学校運営へと生かしていきたいと思ひます。